

<事前評価>

研究 番号	1	担当部	環境科学部	研究期間	令和8～10年度
研究 課題名	石川県における大気モニタリング評価				
研究 概要	<p>研究の背景 大気測定局における大気常時監視の測定データをもとに、大気汚染物質のトレンド把握や分布予測を行い、環境大気モニタリングの適正化を図るとともに、県民により詳細な大気汚染情報を提供する。</p> <p>研究目標 本研究は本県における大気汚染物質濃度の空間分布及び地域特性を把握し、現在の測定局配置を評価することを目指し、今後の大気環境施策の検討を行うための基礎資料とすることを目的としている。</p> <p>実施内容 1. RK法を用いた濃度分布予測 2. (1.の結果から)クラスター解析による地域分割 3. 結果の解析 濃度変化とイベントの関連性評価及び測定局配置評価</p>				
評価 結果	B	実施することが適当			
委員会 意見	<p>蓄積されている大気モニタリングデータを解析することは重要であり、意義は評価できる。現状での観測地点は、生活環境の保全を目的として設定しているため、多少偏りがあることから、統計的な補完により、地域特性を可視化することができることが期待される。</p> <p>一方、自然災害などのイベントとの関連に関しては、能登地区のデータが少ないことから困難であるかもしれないが、能登半島地震時の大規模火災の影響が見えてくることを期待したい。 また、結果をどのように行政的な施策に反映させるかについては、検討が必要である。</p> <p>能登半島地震により、自然環境も大きく変わりました。天変地異により何がどのように変わったのか把握できることは、平時の備えや復興の力となります。大気汚染状況についてセンター自らで解析できるようになること、現在手薄になっている地域もカバーされ、地域別傾向も把握できるようになることは、平時の活動影響だけでなく、災害影響を知る上でも役立つと考えます。観測項目についても、そういう観点からも引き続き吟味いただくのがよろしいのではないかと思います。</p> <p>長期間観測され蓄積された大気常時観測データを解析することは有用であり、特に今回国立環境研究所から無償の技術援助を得て、高度なデータ解析を習得する機会となることは、今後の大気モニタリングをする上で有意義な研究となると思われる。</p> <p>しかし、本研究の計画では、最近2～3年のデータを解析することが説明されていたが、能登半島地震による大気への影響は、能登地方における火災や地震による建物の倒壊や解体および道路工事等だけでなく、金沢市やその他周辺地域の交通量の変化が長期間続いたことも影響を与えていることが推察される。(現在も震災以前とは異なる状態が継続していると思われる)。これらのことから、今回の解析では、震災の影響のない年度のデータを用いてベースラインデータとし、それが確定した後で、震災後のデータ解析を行い、比較することが望ましいと思われた。</p> <p>空間分布予測精度向上のために、他県の調査データを収集というのは、よい方法と感じた。移動測定拠点が活用可能とのことだったので、補助的なデータ取得も含め、可能な限り高精度の空間分布データの取得を目指されたい。</p> <p>クラスター解析による地域分割では、数学的処理による結果を出すことに留まるのではなく、発生源や周辺環境などを考慮した大気環境としての解析ができることを期待します。</p> <p>昨年の地震による状況の変化などを踏まえて、どの時期のデータを使うかによって結果は異なることも可能性として考えられます。そうしたことの考慮もあれば良いかと思います。</p> <p>県内の大気汚染を長年にわたり常時監視測定し調査されていることに感謝です。金沢市の海側に測定局が少ないようにも感じます。自動車の排気ガスばかりでなく、大陸からの黄砂もあり、引き続きの調査研究に大いに期待しています。</p>				